

カルタ遊びで環境問題を学ぶ「しもつま環境カルタ大会」

市民、事業者、行政が協働して温暖化対策を推進し、低炭素社会の実現を目指す「STOP!温暖化エコネットしもつま」が主催する「しもつま環境カルタ大会」が2月16日、イオンモール下妻で開催されました。

「しもつま環境カルタ」は、平成22年度に「読み札」を市民から環境に関する標語を公募し、「絵札」は市内中学生が描いたもので、環境に関心を持つきっかけづくりと、環境問題意識の共有を目的に制作された下妻オリジナルのカルタ44枚。

競技には、市内幼稚園、保育園及び小学校から各チーム2名ずつ、63チームの計126名の児童が参加し、読み手の言葉に少しでも早く反応しようとカルタをにらみながら、白熱した戦いを見せていました。

「小学校低学年部門」で優勝した上妻小学校3年の吉田莉織さんと鈴木優花さんのチームは「今回初めて参加して、優勝できてうれしい。休み時間に練習したか良かった。これからも環境のことについて考えていこうと思った」と話してくれました。

平成25年度しもつま環境カルタ大会結果一覧(優勝チーム)

部門	チーム名	学校名	氏名1	氏名2
幼児の部	だいぼうチーム	大宝保育園	保科 純人	田崎 遥菜
1年生の部	男ぐみ	宗道小学校	松本 唯	高野 粹基
2年生の部	りのどかチーム	大宝小学校	稲葉 璃乃	飛田 和花
3年生の部	上小3年チーム「バーニー」	上妻小学校	吉田 莉織	鈴木 優花
4年生の部	M2で倍返しだ!	総上小学校	横倉 未悠	猪瀬 愛
5年生の部	ラッキー∞	下妻小学校	横島 璃子	飯田 雅子
6年生の部	宗道ガールズ	宗道小学校	小澤 咲葵	小川 陽生



素早い動きでカルタを取りに行きます

平成25年度のクリーンポート・きぬダイオキシン類測定結果について報告いたします

測定日	採取場所	測定炉	分析結果
平成25年12月9日(月)	煙突中間部 (排ガス)	1号炉	0.037ng-TEQ/m ³ N
平成25年11月27日(水)		2号炉	0.18 ng-TEQ/m ³ N
国(「ダイオキシン類対策特別措置法」「廃棄物処理法」)の排ガス中のダイオキシン排出基準			1.0ng-TEQ/m ³ N (2002年12月1日から)
クリーンポート・きぬの排ガス目標値			0.5ng-TEQ/m ³ N

※排ガスについて、国の排出基準、及びクリーンポート・きぬ独自の管理目標値を下回る測定結果となりました。

測定日	品目	分析結果
平成25年12月9日(月)	焼却灰	0.012ng-TEQ/g
平成25年12月9日(月)	ばいじん等	0.59ng-TEQ/g
焼却灰、ばいじん等の処理基準		3.0ng-TEQ/g (2002年12月1日から)

※焼却灰、ばいじん等について、国の処理基準を下回る測定結果となりました。

用語の解説

ng (ナノグラム)

ナノは10億分の1の単位。
ngは10億分の1グラム。

TEQ (Toxic Equivalents)

ダイオキシン類の濃度(毒性の強さ)を表示する際に、異性体ごとの毒性強度と存在量を考慮して算出した濃度であることを明示するための記号。

m³N (m³Normal)

圧力1気圧、温度0℃の状態における気圧の体積をm³で表した単位。

問い合わせ 下妻地方広域事務組合
クリーンポート・きぬ
☎43-8822

有料広告欄

下妻市まちづくり女性スタッフ 第9期 提言式



稲葉市長へ提言書を提出

女性の視点で行政参画 下妻市まちづくり女性スタッフ 提言式

”人にやさしい夢のあるまち下妻“を目指して、まちづくり女性スタッフ(第9期)14名の皆さんが2年間、行政やまちづくりについて勉強を重ね、今後の市政運営の一役になればと2月21日、稲葉市長に提言書を提出しました。身近な生活体験から女性の目線で考え、3つのテーマについて提言されました。

提言の概要

テーマ1 高齢者が安心して生活できるまちづくり

- ・高齢者が外出しやすく、自立した生活が送れるよう、タクシー利用券の枚数を増やすなど福祉サービスの充実。
- ・相談体制を強化するため、介護アドバイザーの配置など。

テーマ2 子育てにやさしいまちづくり

- ・遊具の種類や親子で一緒に入れるトイレ情報が記載された、親子が安心・安全に利用できる「公園マップ」の作成。
- ・子どもから高齢者まで、世代間をつなぐ交流事業の充実など。

テーマ3 未来へつながる環境づくり

- ・子どもときから意識啓発を図るため、体験型イベントの開催。
- ・ごみ分別がしやすいよう、また外国人にも理解しやすい「ごみ分別辞典」の作成など。

女性スタッフから提言書の内容などが説明された後には、女性スタッフ全員と稲葉市長によるフリートーク方式での意見交換が行われました。稲葉市長からは、最近の市の動向や財政状況の報告があり、今回の提言書の中にあつた項目で、新年度予算での対応が予定されている事業などが説明されました。



提言書の内容などを説明する女性スタッフ

女性スタッフからは、自動車を持つことができない高齢者の不便さ、福祉の各種サービス内容や利用の仕方を知らない人が多いなどの実情、学校施設の有効活用などの話題が上がり、その場で稲葉市長が回答するなど活発な意見交換が行われました。

市では、これらの提言を受け、下妻市が活力にみなぎり、ずっと住み続けたいまちになるため、市民と市が信頼しあえるよう、提言を市政に取り入れていきたいと考えています。

有料広告欄